

くまのこだより



令和5（2024）年8月2日（金）発行
赤磐市桜が丘東 6-6-704
さくらが丘保育園

『こどもの「自分でやりたい」を大切にしましょう』

こどもの「やりたい」を尊重するには何が必要だろうと考えました。

「やりたい」と言える環境、自ら選択できる環境、「自己主張」を受け止められる余裕…などいろいろ思い浮かびますが、私たちは、物的環境、人的環境を整え「主体的になれる環境」を意識的に作っていくことが必要だと思いました。

保育の現場では、どの程度まで見守るか、いつ大人が介入するかなどせめぎ合いの中での判断と対応をしなければなりません（ここが保育の難しさや醍醐味なのです）。自由が行き過ぎたら無秩序状態にもなり安全の確保が難しくなることもあります。こども集団の育ちによってそうならない場合もあります。

こどもの「自分でやりたい」を大切にすることとは、こども自身が自分の未来を自己決定していくということに繋がります。こども自身が自分の生き方を決めて進んでいけるように「やりたい」「やってみたい」を引き出す環境を大人も楽しみながら作っていきたいと思います。

花房 由美



職員の移動がありました。

7月31日で、予定より休職していました、つき組担任の松岡加奈子が退職いたしました。

なお、7月1日より、逸見裕香をつき組の担任として配置しております。

お知らせ（再確認）

○7月1日（月）より、園からのお知らせは以下のように変更しています。

《行事・準備物・園だより等、大事なお知らせ》

→おまかせ保育システム内の『お知らせ』

（注）お知らせは20件しか表示されません。（情報の古いものから消えていきます）
必要な情報は、必ずスクリーンショットをしていただくか、おたよりのPDF版を保存してください。

《日々の保育の様子（つき・ほし・そら組）》

→各クラス前のホワイトボード

※はな・ゆき・にじ組は連絡帳にて日々の様子をお知らせしています。

変更することにより、届かない事例が発生しなくなると同時に、プッシュ通知機能がないため、おまかせ保育システムをたびたび確認していただく必要があります。
事務室窓口横の「お知らせ掲示板」を合わせてご確認ください。

《緊急時》

→おまかせ保育システムに登録されているメールアドレスにメール

※その他、お知らせ・ホームページ等でも発信します。



そら組7月18日

桜が丘小学校のプールで

初めてあそびました

水、きもちいい～。
たのし～い！





すずらんより



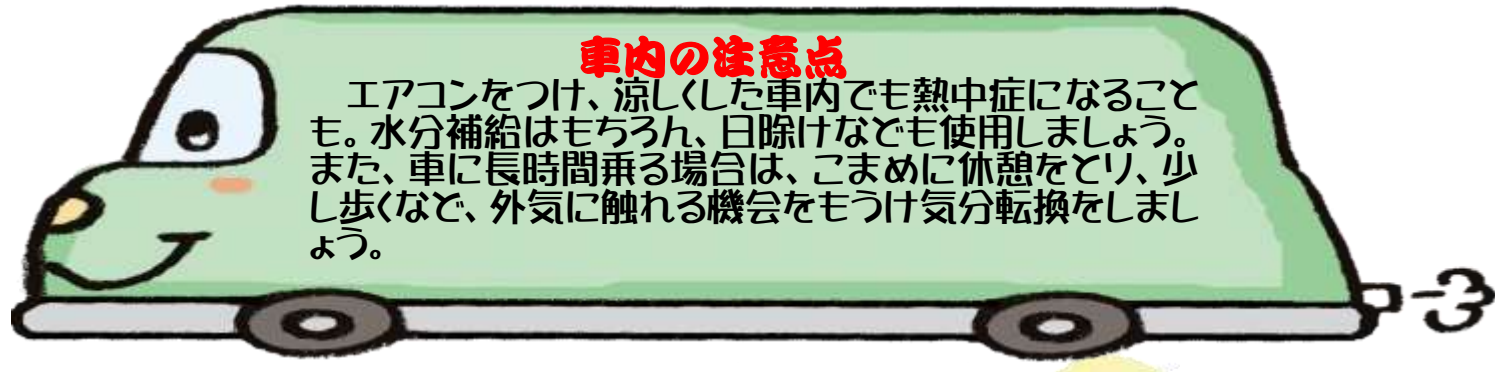
夏バテ

夏バテの大きな原因は、暑さによる食欲低下です。冷たい飲食物の摂取が多くなり、食事のバランスが偏ってしまったり、大量の汗をかくことで体が水分不足にもおちいつたりします。熱帯夜の寝苦しさをからくる睡眠不足などの条件が重なって、体調を崩す場合が多いようです。

夏バテ STOP！お家でできる予防法 6 選



- ☆普段からの軽い運動
- ☆お風呂にゆっくりつかる
- ☆水分補給は麦茶がおすすめ
- ☆冷たいものの食べすぎ注意！！
- ☆夏野菜をしっかり食べる
- ☆早寝早起き



車内の注意点

エアコンをつけ、涼しくした車内でも熱中症になることも。水分補給はもちろん、日除けなども使用しましょう。また、車に長時間乗る場合は、こまめに休憩をとり、少し歩くなど、外気に触れる機会をもうけ気分転換をしましょう。

私の好きな絵本

こどもの頃、大好きだった絵本です。字も読めない年齢の頃から、「海の中はこんな風になってるんだな〜」と、ワクワクしながらずっと見ていました。

息子たちにも見せたくて購入しましたが、大人になってから読んでみると、「あれ？こんなのがあったかなあ？」（あの頃のワクワク感がない…）と思ってしまいました。

とても大好きな絵本でしたが、こども時代の“おもしろい”と、大人の“おもしろい”の感じ方のギャップを、改めて感じた一冊でもあります。

谷口 あい





『クラスで今！ブームのあそび① ほし組』

「めだかの学校」という集団あそび。そら組に、あそび方を伝授してもらいました。捕まらないようにザリガニの動きをしっかりとみて移動をしているこどもたち。移動をする前の歌いながら踊ることも楽しそうです。

『クラスで今！ブームのあそび② ゆき組』

見立てあそびが楽しくなってきました。戸外でも室内でも、お皿やコップを手に持ち、料理を作っては「どうぞ」と保育者や友だちにふるまっています。

赤ちゃんの人形を用意すると、子沢山な、お母さんお父さんに変身です。おんぶや抱っこをし、買い物袋を持ちは「いってきます」とお出掛けしたり、布団を掛けてトントンしながら「ねんねんよ」と寝かし付けたりしています。

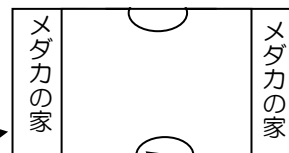
お家の人や保育者の姿をよく見ていて、その姿を真似するのが、とても楽しいようです。



～集団あそび紹介～

『めだかの学校』

- 10～20人で遊ぶ。
 - 鬼（ザリガニ）と子（メダカ）に分かれる。
 - 2つの安全地帯（メダカの家）と鬼の陣地（ザリガニの家）がある。
 - 外枠の線から出ない。
 - 振り付けに合わせて『めだかの学校』の歌を唄い、歌が終わると同時に子は一方の安全地帯からもう一方の安全地帯へ引っ越す。鬼は移動している子を捕まえにいく。
 - 子は鬼にタッチされると捕まったことになる。（増やし鬼型式）
 - 歌が終わってから安全地帯や鬼の陣地から出る。
- 鬼に最後まで捕まらなかった個々の子が勝ち。
○鬼が全員捕まえることができれば勝ち。



今月のテーマ『子どもの「自分でやりたい」を大切にしましょう』



花は咲く



給食やおやつのおかわりをするときは、自分で考えて盛りつけられるよう、できるだけ口出しをしないようにしています。

おかわりするとき、こどもたちは期待に胸を膨らませた表情で食べたい物の所へ並び、どれぐらい残っているのかのぞき見しています。順番が来たら意気揚々とほしいものを盛りつけます。好きなものは多めに、苦手な食材は何気に避けて。自分で盛りつけるからこそできることです。

また、後ろに並んでいる人のことも少し気を使い、自分たちよりも小さいクラスの子がおかわりをしていると、声を掛けてお皿に入れてあげます。自分で選択できる環境を作ることによって、いろいろな育ちが見えてきます。

そら組 土屋 勇気

おやつの時の机出し、机拭きや午睡の時のゴザ敷き、布団敷きなど保育者がやっている「やりたい」と手伝いをしにやってきます。

4月の頃はたたまれている机の脚を出す時に、力が足らなかつたり、手を挟んでしまうのではないかと保育者が手を出さざるを得ない場面もたくさんあったりしました。しかし、7月になると、自分たちで机の脚を出して運んでいる姿がみられるようになってきました。

危険だから止めてしまうのではなく、安全に気をつけながらこどもたちのできる事が広がっていくように関わっていきたいです。

ほし組 下山 静菜

いちばんぼし





Full Moon

Half Moon

Crescent Moon



給食やおやつの時など、やかんのお茶は自分で入れています。以前はこぼれると「こぼれた」と保育者に伝え、どうしたらいいのか保育者に聞いていました。最近は、こぼれた場所によって雑巾か台ふきかを考えて、しまっている場所から適切な物を持ってきて、自分で拭く姿が見られるようになり、日々成長を感じています。

こぼした経験から、次はこぼさないようにどうしたらいいのか考えるきっかけや、こどもたちが自分でやろうとする気持ちを、奪ってしまわないよう、できるだけ見守るように心掛けています。

大人がした方が確実に早いことは多々あり、つい手伝ってしまいそうになりますが、これからも自分でやってみようと挑戦する姿を大切にしながら、できた時には一緒に喜べる存在でありたいと思います。

つき組 竹内 和羅



バケツに絵の具と石鹸、水を入れて準備 OK！保育者がブルーシートの上に模造紙とバケツを置くと「なにそれ～」と興味津々。保育者が「見ていてよ」と、手や足に絵の具をつけて模造紙にペタン。「やってもいいよ、どうぞ～」と伝えると、少しだけ手に絵の具をつけて模造紙へ。手と模造紙に色が付いたことを確認すると、それからは、手や足に絵の具をつけたり、バケツに直接入ったりし、その子なりに考えながら、絵の具を身体につけていました。途中で絵の具が泡立つことに気付き、「みて！あわ～」と嬉しそうに保育者に見せていました。

保育者がきっかけを作り、こどもたちが自分で試したり、考えたりしながら、自分でやってみる楽しさを、しっかり味わってもらいたいと思います。

にじ組 大森 航輝



「自分でやりたい」と思う気持ちが芽生える年齢です。

他の子がトイレに行っている姿を見ると保育者の元に駆け寄ってきます。“トイレに座りたい”と思うこどもも多く、「パンツとズボン脱いたらトイレに座ろね」と伝えると自分で脱ごうとしています。

こどものやろうという気持ちを尊重しながら、できないことはさりげなく援助をし、できた時には「やったね」「すごいね」と保育者も一緒に喜びます。

4月の頃は保育者に全介助してもらっていたこどもも、今では自分からパンツを脱いだり、履いたりできるようになっている子もいます。

こどもの“やりたい”をという意欲とさりげない援助で成功体験を積み重ねていきたいと思います。



ゆき組 佐々木愛未



はな組では、自分で手づかみで食べたり、スプーンを持とうとしたりする姿が、少しずつ見られるようになっていきます。

保育者が「あーん」と食べさせようとするとうんざり返って怒り、口をあげない…。そして、しばらく怒った後、その食べ物を自分で手づかみで食べる…。そんな個々のこどもの様子に合わせて、保育者は見守ったり、励ましたりしながら、食事介助を行っています。

“自分で食べよう”“食べてみよう”というそぶりが少しでも見られたら、手づかみでもなんでも、今は食べる意欲を育てる時期だと思って見守りたいと思います。

はな組 平松 美友紀

全私保連保育運動
新しい時代は
子どもから

保護者の皆様へ 私たちが伝えたい7つのメッセージ



今回のメッセージは……

その4 子どもの「自分で
やりたい」を大切にしましょう

子どもの頃、たくさん失敗や痛い思いをした経験が皆様にもあると思います。その経験が今生きていることの糧になったことも多いのではないのでしょうか？

思い出してください。失敗や痛い思いをした時、自分はどんな気持ちでその行動をしたのか……と。「絶対失敗するぞー」「必ず痛い思いをするぞー」と思っていたはず、怖いもの知らずだったはず。だからこそ失敗や痛い思いを経験することができて、宝物を得ることができたと思います。

今、そんな経験を踏まえて大人になり、親になった私たちが、同じように宝物を得ようとしている子どもたちから、大切な経験を奪ってしまっていることが多くないでしょうか？

成功する道筋を先に教えてしまったり、危ないからと、遊びに歯止めをかけてしまったり……。

大切なことは結果ではなく、溢れる興味と、



向かう勇氣、やり遂げようとする強い気持ち、成し遂げた時の達成感と自己肯定感なのではないでしょうか。そんな宝物を得ようとしている子どもたちを、温かい目で見守ってほしいと思います。

家族団らんの時間、テレビではクイズ番組が放映されていました。問題が出されて、子どもは一生懸命考えているのに、先に答えを言ってしまうお父さん。お母さんからの冷たい視線(笑)。子どもは答えを知ることができませんでした。考えることはできませんでした。すぐに答えを忘れてしまうことでしょうか。自分で考え導き出した答えではないから。だったら、一生懸命考えて間違った方がまだよかったかもしれませんね。

朝は、ごのご家庭も大忙し。玄関で、自分で靴を履こうと頑張る子ども。お母さんが「急がなきゃ」と焦る気持ちは十分わかります。でも片方だけでよいから、「自分で」と頑張っているわが子の気持ちを大切にしておいてもらえませんかね。

「口に」入るより、溢している量の方が多いいのでは？」と思うような食べ方のわが子。でも、小さい手で、不器用ながら力強く生きようとしている姿です。

子どもの「自分で食べたい」「自分で」という思いを、大切にしておいてあげてください。